

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

不登校児童生徒支援（D X活用等）事業

事業の経過・背景・課題

不登校児童生徒及び教室以外の場所に登校している児童生徒については、年々増加傾向にあり、早期発見・未然防止を図るため、スクールカウンセラーによる相談対応や教育支援センター等関係機関と連携するなど、各学校において丁寧に対応しているところ。教室以外の別室運営については、授業の空いている教員が対応するなど、日によって対応者が異なるため、コミュニケーションが苦手な児童生徒にとっては心理的負担が大きい。

取組内容

交付実績額： 5,089 千円

〔学校内の居場所づくり〕

- ・小学校 5 校と中学校 1 校に支援員を配置し、「**校内教育支援センター**」を新設
- ・1 日の取組や学習内容、時間割を生徒自身が主体的に決定したり、支援員等との関わりを通して、小さな成功体験を積み重ねて「自己肯定感」や「自己有用感」を育む
- ・教育支援センターに新たに発足した「不登校研究部門」において、学校内の居場所づくりの事例等も踏まえ、不登校の実態把握を行い、子どもの多様性に対応した授業の工夫や支援の在り方について研究

〔心と体の健康観察アプリ試行導入〕

- ・一部の小中学校において、試行的に 1 人 1 台端末に「心と体の健康観察アプリ」を導入
- ・毎朝児童生徒が自分の状態を記録し、自身の好不調の傾向を確認
- ・早期対応すべき児童生徒の情報を学校内でのチーム支援に活用

▶ 「心と体の健康観察アプリ」

※児童生徒が心の状態を入力する画面



事業の成果・今後の展望等

- 学校内の居場所づくりについて、「決められた曜日、時間に支援員が常駐することで、学校に通いやすくなった。」「表情が明るくなった。」「コミュニケーションが増えた。」等の成果がみられた。
- 心と体の健康観察アプリ試行導入について、「心の状態が良くないと回答した生徒に声掛けをして悩みを聞き出すことができた。」「個々の生徒の状況がよりわかるようになり、適切な支援につながった。」等の成果がみられた。
- 引き続き不登校児童生徒等の教育機会を確保し、社会的自立を目指した支援策の更なる拡充、個に応じた支援をより一層推進するとともに、心と体の健康観察アプリについては、全小中学校で正式導入を目指す。

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

グローバル化など社会の変化に対応した 国際理解教育推進事業

事業の経過・背景・課題

長岡京市第2期教育振興基本計画に「グローバル化など社会の変化に対応した教育の推進」を掲げ、英語(外国語活動・外国語)学習においては、発達段階を踏まえた4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)の系統的な指導を実施している。

社会のグローバル化に対応していくには、子どもたちの発達段階に応じて、楽しく分かりやすく、興味関心の高まる授業や異文化に触れる機会の更なる充実が求められている。

取組内容

交付実績額： 10,726 千円

- ・全小学校に外国語活動指導員を配置し、英語の授業や外国語活動の学習支援を実施
- ・小学校に指導者用デジタル教科書(英語)を導入し、英語教育を充実
- ・中学校に英語を母国語とする英語指導助手を配置し、英語科の授業支援を実施
- ・中学生を対象に、友好姉妹都市・米国アーリントンへの短期交換留学を実施
- ・英語技能検定にチャレンジする機会を創出



▶米国アーリントン短期留学の様子



事業の成果・今後の展望等

小学校においては、外国語活動指導員が学習支援を行うことで、英語に対して興味関心を持つことができた。中学校においては英語を母国語とする英語指導助手による学習支援を通して、ネイティブ英語に触れ、異なる文化や生活習慣を学ぶことができ、多様な価値観や文化的背景の理解を深めることができた。

また、米国アーリントンへの短期留学や英語技能検定にチャレンジする機会の創出により、英語学習に対するモチベーションの向上を図るとともに、グローバルな人材の育成と国際理解教育を推進することができた。

引き続き英語教育の充実を図り、子どもたちの発達段階に応じて、楽しく、興味関心の高まる授業を追求していくとともに、子どもたちの語学力の向上を促進する。

問い合わせ先

長岡京市教育委員会学校教育課 (075-955-9533)

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

I C Tを活用した教育の推進及び 情報活用能力の育成事業

事業の経過・背景・課題

国のG I G Aスクール構想に基づく1人1台端末の導入や教材・資料等を投影できる大型モニターを全ての普通教室に設置するなど、全小中学校において日常的にI C Tを活用した授業を行っている。

I C Tを使うことが目的ではなく、学習用具の1つとしてI C Tを効果的に活用し、児童生徒の関心や集中力を高め、より分かりやすく・工夫された授業展開が求められている。

また、すべての児童生徒が必要な資質・能力を身につけ、学びを深められるよう、発達段階や特性に応じた計画的な指導により個別最適で主体的・協働的な深い学びを実現する。

取組内容

交付実績額： — 千円 ※セット新規

(※) 本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

- ・日常的にタブレット端末を活用した授業を行い、子どもたち1人1人が主体的に学び、確かな学力を身に付けるため、「タブレット用授業支援ソフト(ロイロノート・スクール)」を導入
- ・特別支援学級に在籍する児童生徒1人1人の特性や発達課題に合わせた「学習支援アプリ」を導入

〔ロイロノート・スクールの主な機能〕

- ・オンラインで課題や宿題を提出・返却する
- ・複数人で同時に意見を共有・比較する
- ・1人1人の意見を集約し可視化する

〔学習支援アプリの主な機能〕

- ・指でなぞってひらがなやカタカナを覚える
- ・ゲーム感覚で算数を学ぶ
- ・キーボード入力や手書き入力機能を活用し、文字を書くことをサポート



事業の成果・今後の展望等

○「タブレット用授業支援ソフト(ロイロノート・スクール)」を導入

- ・教員と児童生徒の双方向のやり取りが生まれるとともに、児童生徒同士での協働学習が促進され、より学習効果の高い授業を実施することができた。
- ・文章や図表、データなどから情報を探し出す力、物事を多面的・多角的に見る力、論理的に考え説明する力などを育成することができた。
- ・各教科等における様々な学習活動を通してI C Tを効果的・効率的に活用し、情報を取得し、整理・比較して考えを形成する力を育成することができた。

○特別支援学級に在籍する児童生徒に「学習支援アプリ」を導入

- ・デジタル教材の活用により授業に工夫を加えることで、発達段階や特性に応じた指導を行うことができ、児童生徒1人1人にとって分かりやすい授業のユニバーサルデザイン化の推進を行った。

○引き続き1人1台端末を活用し、より学習効果の高い授業を実施していく。